

北名古屋市地域福祉ワークショップ 活動報告

1 活動の趣旨・概要

「第４期北名古屋市地域福祉計画・北名古屋市社会福祉協議会地域福祉活動計画」の策定にむけ、中学校区ごとに、１回あたり約９～１１人の住民の皆様にご参加いただき、全６回のワークショップを実施しました。

ワークショップは、4人ずつ、3班に分かれ、画用紙に意見を書いて、壁に貼って整理する方式で行いました。

班ごとに「自己紹介」のあと、「北名古屋市やお住まいの地域に思うこと～福祉的な観点から～」をテーマに、「自由討議」→「画用紙記入」→「読み上げ・画用紙貼り」→「追加討議」→「追加画用紙記入・発表準備」の流れでワークを行い、最後に班ごとに「全体発表」を行いました。

参加者の所属団体

社会福祉協議会支部長、民生委員、保護司協議会、高齢者ふれあいサロン運営ボランティア、学校運営協議会、市内在住・在勤の方及び学生

ワークショップの開催日時

日時	場所	備考
7月3日（土）10時～12時	憩いの家さかえ荘	主に師勝中学校区在住の方
7月3日（土）14時～16時	憩いの家さかえ荘	主に訓原中学校区在住の方
7月10日（土）10時～12時	憩いの家さかえ荘	主に熊野中学校区在住の方
7月10日（土）14時30分～16時30分	陽だまりハウス	主に西春中学校区在住の方
7月17日（土）10時～12時	陽だまりハウス	主に白木中学校区在住の方
7月17日（土）14時～16時	陽だまりハウス	主に天神中学校区在住の方

中学校区の区域



2 結果の概要

(1) 師勝中学校区 (出席者 11 名+スタッフ 1 名)



〔発表の要旨〕

師勝中学校区のワークショップの各班の発表では、「高齢者が地域住民のために活躍できる機会づくり」(1班)や、「身近な人づきあいからはじめ、頼り、頼られる関係に発展させるためのしくみづくり」(2班)、「心理的にも物理的にも一歩外に(前に)出て、支える人も支えられる人も変わっていくこと」(3班)などの方向が示されました。

1班 「高齢者が地域住民のために活躍できる機会づくり」

- ★ ふれあいスポーツクラブがコロナ禍で2年くらい活動中止になっている。600 人の参加者のうち9割が高齢者。皆さん、とてもお元気で、健康体操や卓球などをやられている。また、市内の喫茶店が高齢者の集いの場になっている。
- ★ こうした高齢者が、生きがい就労のような形で、住民の方のために、お役に立てる環境を作っていくとよい。
- ★ お母さん方の中には、学力向上を望む声もある。レベルの高い学校は東京にあり、学力の高い子どもは地域を離れてしまうという矛盾もある。しかし、いいまちであれば、卒業後、子どもたちが地域に愛着を感じて、地域で貢献してくれる。いい教育のところにいいまちができる。そういう想いを込めて教育をしていただきたい。
- ★ コロナ禍でタブレットの使用もはじまったこともあり、小学校高学年のクラブ活動が中止になっている。また、図書館の1か所化のことも含め、楽しみが減って残念。

2班 「身近な人づきあいからはじめ、頼り、頼られる関係に発展させるためのしくみづくり」

- ★ 私たちの班では、「障害の子どもへのケアが親だけでは難しいから地域でその手伝いをしている」、「コロナ禍で頼れる人もいないから虐待の件数が増えている」など、年齢や性別、考え方もそれぞれ違うメンバーから、いろいろな意見が出た。両親が仕事に行っている間に子どもが地震にあったらどうすればよいか、など、防災面の意見も出た。
- ★ お互い様の関係づくり、助け合える関係になればいい。助ける気持ちはあるが、助け方がわからない、ちょっと電球を変える、ちょっと子どもをみていてあげる、といったことがなかなかできていない。
- ★ 根本的な問題は、人づきあい。あたたかい近所づきあいができるまちになってほしい。あいさつからはじめて、世間話をするようになって、ちょっとした困りごとを話し合えるようになれるまちになればよい。
- ★ 頼られ上手になることが大切。信頼関係を育んで、頼られる人に私たち自身がなっていきたいし、個人対個人では「迷惑かけたくない」という気持ちが先行するので、対価を伴う有償ボランティアのようなくみが有効だと思う。
- ★ 社協や行政には、有償ボランティアのしくみを整えていただいたり、あいさつ運動などをお願いしたい。

3班 「心理的にも物理的にも一歩外に（前に）出て、支える人も支えられる人も変わっていくこと」

- ★ 私たちの班では、子どもの居場所がない、子どもが子どもらしく遊べる場、「貧困の連鎖」などの話が出た。高齢者も同様だが、「一歩でも外へ出ること」。SOSが言えること。お互い様。人に迷惑をかけてはいけないということではなく。お互い様の気持ちになれば地域が変わると思う。
- ★ 「孤独死・孤立死」はいけないことなのか。行政は大変だろうが。凜としてそれを選んでいる人も世の中にはいる。
- ★ 若者は、地域で何か貢献したいと思っている。自分一人がやってどうなる、など、消極的に考えずに、他人の目を意識せずに、積極的に行動すれば、本人にとってもその方がよいと思う。
- ★ 北名古屋市は、自助・共助に取り組むには、恵まれた地域である。サロンなど、様々な地域資源があり、他市住民からうらやましがられる。
- ★ 一方で、転入してきた住民の中には、北名古屋市のまちづくりのよさを肌で感じられていない人もいる。特に、若いお母さん方は、教育に不満がある。

〔画用紙の記載内容〕

参加者一人ひとりが画用紙に記載した内容は、以下の通りです。

コロナ禍の影響や、交通の便をはじめとする生活環境の問題、情報伝達の問題、避難支援や「孤独死・孤立死」など生活安全上の問題などのほか、地域活動の場・機会の充実や、地域での支え合いに関して、様々な意見が出されました。

①コロナ禍関連

- ◆ コロナ禍の中、こども食堂や高齢者サロンなどをどのようにして以前のようにしていくか。
- ◆ コロナ禍で外出機会が減り、ご近所さんとの関係も薄くなってきている気がする。
- ◆ コロナ禍で、人とのコミュニケーションの取り方が難しくなっている。

②生活環境の問題

- ◆ 買い物へ行く交通手段が十分でない。
- ◆ 道が狭く、建物の死角も多いため、子どもや高齢者などの通行に不安がある。
- ◆ きたバスの時刻表がわかりづらい。
- ◆ 車いすでも通りやすい歩道など、道路環境を整備する。
- ◆ 駅までの交通手段の選択肢が少ないので、多くしてほしい。
- ◆ 高齢化による免許返納が課題となっている。
- ◆ 図書館が使いづらい。コロナで開館時間の短縮や開館日の縮小があり、学校帰りに利用しづらい。また、2か所から1か所に減ると、西春地域住民からは遠くなる。経済的に本が買えない家庭への支援が十分とは言えないのではないか。

③情報伝達の問題

- ◆ 情報がなかなか伝わらない。
- ◆ 情報が理解できない人がいる。
- ◆ 「デジタル化」「ネット社会」の課題が生じている。スマホなど情報機器が苦手な人は、情報格差が広がっている。人とのつながりが大切で、人から見聞きする情報は活字より有効だが、引きこもっている人は情報が得にくくなっている。市役所などからの文字情報もわかりにくいものがある。

④生活安全の問題

- ◆ 独居の高齢者が増加しており、災害時の避難支援などに不安がある。
- ◆ 高齢者のみの世帯や共働き家庭の子どもなどの災害時の避難支援が難しい。
- ◆ 災害時に、誰が誰を安全な場所へ避難させていくかという分担を明確にしていく必要がある。
- ◆ 「孤独死・孤立死」は一概にダメとは言い切れないのでは。単身世帯はこれからも増えていく。

⑤地域活動の場・機会の問題

- ◆ 元気な高齢者が働ける場がもっとあると良い。(シルバー人材センターとは異なるもので)
- ◆ 介護保険サービスの利用が「先送り」できるよう、「自助」を支える行動を地域で進めていきたい。
- ◆ 高齢者と子育て世代が気軽に集い、高齢者の社会参加と子育て支援の両方につながるしくみがあるとよいのではないか。
- ◆ 老人クラブの入会者が減っており、次世代に活動を引き継げない懸念がある。
- ◆ 自身が関わっている子ども食堂の取り組みを通じて、「貧困の連鎖」をなくしたい。
- ◆ 子どもが「子どもらしく」遊べる場、「居場所」を充実させていきたい。
- ◆ 年齢や環境に関係なく、交流できる場が地域にほしい。

⑥地域での支え合いに関する様々な問題

- ◆ ご近所さんとのつきあいは、あいさつをする程度で、深いつきあいが無い。地域での自分と違う世代の住民とのつきあいも少ない。
- ◆ ご近所づきあいがかつてのようにならないので、有事のときに協力しあえないと思う。地域の子どもたちが地域の大人と顔見知りではないので、いざというとき、近所の人に頼ることができない。
- ◆ 「『ちょっとした手伝い』をしてほしいが人に迷惑をかけたくない」と考えてしまう。
- ◆ 「お互いさま」の関係づくりには、「頼られ上手」になることが重要。
- ◆ 子どもや高齢者をしっかり見守れる地域がよい。
- ◆ 日中、地域で高齢世代が困ったときに、手伝いができる若い層が少ない。
- ◆ 閉じこもりがちな人に、一歩でもいいから、外に出てきていただく取り組みが重要。
- ◆ 障害を持つ子どもへのケアを地域で行えればよい。保護者の子育ての負担を軽くしてあげる。障害が軽度の場合、地域の住民は、その負担の大きさが認識しづらい。
- ◆ 虐待、DVなどで悲しむ人が出ないように、地域で「福祉の灯」をともし。
- ◆ 人とのつきあい、ふれあい、あたたかい近所づきあいのすすむ街にしていきたい。

(2) 訓原中学校区 (出席者9名+スタッフ3名)



〔発表の要旨〕

訓原中学校区のワークショップの各班の発表では、「公的情報の世代・状況に応じた柔軟な伝達」(1班)や、「つながり、気持ちを寄せ、安心な地域をつくっていくこと」(2班)、「子どもの目線のまちづくりを」(3班)などの方向が示されました。

1班 「公的情報の世代・状況に応じた柔軟な伝達」

- ★ 私たちの班では、公的な情報について、誰に何をどうやって届けるのか、ということを中心に話し合った。若い世代はすっかりWEBが中心になっているが、高齢者はそれを使いこなすことが難しい。
- ★ 情報の伝達は相互作業であり、市民がどのようにキャッチしていけばいいのか、ということも話し合った。市民の側から、こういった情報がほしい、と伝えることも大事である。
- ★ 例えば、子育て世代ならよく知っている「子どもたちの居場所」の利用方法の情報が大学生や高齢者にも伝われば、交流につながるのではないか。
- ★ 大学生など若者は、そもそも社協や市の活動内容に関する情報をよく知らない。最寄りの避難所がどこかも知らない。柔軟な形で周知いただければ、若者側もまた、柔軟に

キャッチできる。

- ★ 高齢者にリアルタイムに伝わるのが大事。コロナ禍で、状況がコロコロ変わり、広報だけでは、十分ではないと感じる。

2班 「つながり、気持ちを寄せ、安心な地域をつくっていくこと」

- ★ 北名古屋市のいいところは、「つながり」からの「安心」。まだまだ地域行事が残っていて、近所のつながりが程よくあり、顔見知りになり、安心を得られる。
- ★ 保護司として、非行少年の保護観察をしている。遵守事項を守っているか、問い詰めるのではなく、嘘をついていたとしても自分から誠実に告白することを待つ姿勢が本人にも周囲（地域）にも重要。取り組みの成果もあり、以前に比べると地域の犯罪件数が減少し、安心のまちになっているのは喜ばしいこと。
- ★ 訓原地域では、お母さん方がミシンを学ぶ小学生を支援する「家庭科ボランティア」や校外学習時の交通整理など、学校運営ボランティアの活動が盛ん。
- ★ 「地域で本当に困っている人」の存在がわかりづらい。困っていても、普通は口に出したり、その素ぶりをみせない。知的障害者、認知症の人など、意思疎通しづらい人に気持ちを寄せていくことも大切。

3班 「子どもの目線のまちづくりを」

- ★ 私たちの班では、子どもの目線から見れば北名古屋市がどうあったらいいか、ということを中心に話し合った。
- ★ 児童クラブに来ている子の中には、保護者が働いているため保護者と接する時間が十分なのではないか、と感じる子もいる。
- ★ 日本に働きにきている外国人が周りにいる環境で育ったが、外国人への支援が十分でないと感じている。
- ★ 子どもたちが外遊びができる環境がもっと充実すればいいと思っている。特に、ボール遊びができる遊び場が十分でない。交通量が多くて、路地などで遊ぶことは危険だし、公園の出入口も車が通り危険を感じることもある。また、住民の中には、子どもの声がうるさいと苦情を言う人もいる。

〔画用紙の記載内容〕

参加者一人ひとりが画用紙に記載した内容は、以下の通りです。

コロナ禍の影響や、交通の便をはじめとする生活環境の問題、情報伝達の問題、子ども・子育てをめぐる問題などのほか、地域での支え合いに関して、様々な意見が出されました。

①コロナ禍関連

- ◆ コロナ禍で様々な活動を制限されている子どもたちのメンタルケアやサポートが必要だと思う。
- ◆ コロナ感染を防ぐため、会うことを自粛している祖父母をどうやって見守っていけばよいか。
- ◆ コロナ禍で経済的に困窮している学生への支援が必要。

②生活環境の問題

- ◆ 久地野地区に病院が集中している。通院しやすい人と難しい人がいる。
- ◆ 総合グラウンドがあり、スポーツしやすい環境である。
- ◆ 建物の死角など、道路環境が危険を感じる場所がある。
- ◆ 駅が遠い。公共交通機関が不便。
- ◆ 駅までの交通手段がない。
- ◆ 公園にゴミが多い。公園の使い方が悪い。
- ◆ 公園など、子どもの遊び場が少ない。
- ◆ 歩道が狭い。交通量が多い。

③情報伝達の問題

- ◆ 行政は、紙媒体の広報、ホームページやSNSなどで情報発信しているが、若者、高齢者など、様々な状況の住民に、必要な情報がちゃんと届くしくみが大切。
- ◆ 自分から助けてほしいと手を上げられない人を、どのように見つけていったらよいか。
- ◆ 助けの求め方。「助けて」とどうやって伝えるの？ どうやったらひろってもらえるの？

④子ども・子育てをめぐる問題

- ◆ どこまで許すか、どこまで教えるかなど、子どもとの接し方が難しい。
- ◆ やんちゃな子が多く、ちょっかいをかける子が多い。
- ◆ 子どもに声を掛けづらい。不審者と思われる。
- ◆ 外遊びする子どもが減っており、友だちとの遊びも、電子ゲームばかり。
- ◆ 子どもたちの居場所をもっと提供してあげるべき。
- ◆ 児童館など、地域の施設と地域住民の関わりが弱いと感じる。
- ◆ 地域の人が、地域の子どもを見守ったり、一緒に遊んだりして、地域で子育て支援していくとよい。
- ◆ 共働きの保護者が我が子と接する時間を作れるよう支援が必要。

⑤地域での支え合いに関する様々な問題

- ◆ 夏祭りなど、地域行事が残っていて、近所のつながりが程よくあり、安心して暮らせることにつながっている。
- ◆ ボランティアに参加してくださる方が多い。
- ◆ 地域の犯罪発生件数が減少しているようで、喜ばしい。
- ◆ 交流の場がもっと必要。
- ◆ 防災が地域の大きな課題。
- ◆ 自治会の意義、メリットが感じられない。
- ◆ コミュニティ活動の場が少ない。あったとしても、その存在を知らないので参加できない。
- ◆ 広い道によって地域が分断されてしまっている。
- ◆ 「地域で本当に困っている人」の存在がわかりづらい。困っていても、普通は口に出したり、その素ぶりをみせない。
- ◆ 外国人への支援が不足している。

(3) 熊野中学校区 (出席者 10 名+スタッフ 2 名)



〔発表の要旨〕

熊野中学校区のワークショップの各班の発表では、「市や社協の職員がもっと地域の会合に参加すべき」(1班)、「活発な地域活動を『知る方法・知らせる方法』の工夫を」(2班)、「『楽しさ』をキーワードに、未来を見据えた地域コミュニティづくりを」(3班)などの方向が示されました。

1 班 「市や社協の職員がもっと地域の会合に参加すべき」

- ★ 1 班では、北名古屋市での子育てと、福祉の情報の伝達について、話し合った。
- ★ 児童館が各小学校区にあることや、地域学校協働活動が盛んなことは、北名古屋市の強みだと感じている。
- ★ 2 年前に転入してきて、現在、未就学児の子を育てている立場から思うこととして、この2年間、コロナの影響で、保護者どうしの交流活動などに参加できず、市のことが分からずじまいでいる。今日、参加者の皆様から様々な情報をお聞きできてよかった。
- ★ 地域福祉活動が知られておらず、その情報をどうやって広げるかが課題。子育て世代は、SNSでの情報発信の強化を求めているが、高齢者への情報伝達は広報紙や掲示板などが基本だという結論であった。また、市や社協の職員が、今以上に、地域のいろいろな会合に参加し、情報を直接伝えてはどうかという意見に、参加者一同、共感した。
- ★ 地域住民の側も、まちなかの掲示板などに書かれている情報を自分の足で歩いて得ようとするすることで、新たな交流のきっかけにもなる。

2班 「活発な地域活動を『知る方法・知らせる方法』の工夫を」

- ★ 2班は、地域のことを「知る方法」や「知らせる方法」はどういうふうにするべきか、が話の中心であった。ばたばた働きながら生活していると、地域のことを知ることが難しい。
- ★ ある地域で、土曜日に野菜を売っており、交流の場になっていることや、六ツ師協働隊のこと、民生委員が積極的に地域活動を行っていることなど、地域では様々な活動が行われているようだが、知られていないことも多い。
- ★ 地域活動の情報を得た人が、実際に行動に移す方法も難しい。話し合いの中では、結論が出せなかった。
- ★ 民生委員や見守り協力員が、日常的に、地域で暮らしている一人暮らしの見守り活動をしているが、年に2回、東公民館で集いを企画・開催してきた。この2年間はコロナ禍で実施できておらず、東公民館もなくなる中で、今後の実施手法を考えていかないといけない。

3班 「『楽しさ』をキーワードに、未来を見据えた地域コミュニティづくりを」

- ★ 3班では、すでにある地縁型の各種団体の活動に、テーマ型のボランティアが横串を刺すような取り組みを進めることで、未来を見据えた地域コミュニティづくりができるのでは、といった話でまとめた。
- ★ 例えば、地域防災活動は、災害は怖いぞとあおられて、恐怖心だけで進めていくのは難しい。災害を経験したことがないのに、怖いからやらないといけないと言っても、人は動かない。「楽しさ」や「子どもの参画」がキーワード。
- ★ 地域コミュニティの担い手不足の問題も、「参加する楽しさ」こそが解決する。
- ★ 子どもたちの見守りについても、例えば、学校の活動の中で、子どもたちが高齢者のお宅を訪問することでお互いが顔見知りになり、それによって、高齢者は、かわいい子どもたちのために見守り活動をするといった気持ちが自然に湧き上がって、行動につながるしくみがよい。
- ★ 行政には、地域で集まる、地域がつながるきっかけづくりをしてほしい。

〔画用紙の記載内容〕

参加者一人ひとりが画用紙に記載した内容は、以下の通りです。
情報伝達の問題や、子ども・子育てをめぐる問題などのほか、地域活動の場・機会の問題、地域での支え合いに関する様々な問題などに多数の意見が出されました。

①コロナ禍関連

- ◆ コロナの影響で、サロンや町内会の行事が中止になり、人と接する機会が少なくなり、行ける場所も減り、引きこもりや筋肉の衰えが心配。

②生活環境の問題

- ◆ 近くに公園が少ない。
- ◆ 近くに、0～3歳くらいの子ども用の公園が少ない。
- ◆ 公園にベンチを置き、高齢者、子どもが自由におしゃべりする地域がいい。
- ◆ 高齢世帯が増え、町内の大掃除が大変になってきている。
- ◆ 買い物支援があればよい。

③情報伝達の問題

- ◆ SNSを有効活用するとよい。
- ◆ 若い人に、北名古屋のことを知ってもらう（SNS、YouTubeのCMなどを使って）。
- ◆ 若者への情報提供方法が課題だと思う。
- ◆ 市や社協の地域福祉の担当者は、地域の会議にできるだけ参加し、理解を深めるべき。
- ◆ 市や社協の職員は、もっといろいろな会議へ出席を。
- ◆ 地域住民自身が地域でもっと出歩くとよい。
- ◆ ボランティア活動の内容を知る機会が少ない。
- ◆ 福祉分野だけでなく、地域づくり全体の総括的な情報共有や課題解決の組織体が必要。

④子ども・子育てをめぐる問題

- ◆ 各小学校区に1つずつ児童館があるのは、北名古屋市のよいところ。
- ◆ 子育て支援センターや児童館での活動を、もっと地域の人に知ってほしい。
- ◆ 児童館が各小学校区に1つずつあるが、活動が知られていない。どのように知らせていくか。
- ◆ 師勝北小学校では、地域の方と協力しながら、いろいろな活動を行っている。さらに、活動を広げるには？
- ◆ 同じ年頃のお母さんと、地域で話す機会が少ない。
- ◆ 子育て世代も、散歩をすれば、近所の人とすぐ関われる、関わりやすい。
- ◆ 交流の場が分からないので、ママ友が作れない。交流の場をどう知ればいいのか。児童遊園は、いい交流の場になる。
- ◆ 通学路での声かけ、見守りを実践しよう。特に、高齢者の方は、玄関先に出よう。
- ◆ 中学生が元気な地域だと感じる。

- ◆ 小中学校の先生方はいい人が多いと感じる。
- ◆ 放課後や土日に、学校施設が開放され、利用されている。
- ◆ 5年生の野外学習では、子ども自身による調理や、大学生の指導を受けながらのキャンプファイヤーなど、様々な体験がある。
- ◆ 保育園を選ぶ時、地域と離れることが多いので、保育園から小学校に上がる時、人のつながりも一度切れてしまう。

⑤生活安全の問題

- ◆ 防災など、地域に住むすべての人の関心事を通して、自治会、小中学校PTA、老人クラブ、ボランティア、福祉団体等がつながろう！
- ◆ 防災も含め、「恐れ」よりも「楽しみ」の視点で地域活動を企画していくとよい。
- ◆ 独居高齢者が災害時に情報を取得しづらいと思う。
- ◆ 水害対策。現在、こういった対策がされているかも、住民はよく解っていない。

⑥地域活動の場・機会の問題

- ◆ 400～500人が参加する餅つき大会が行われている。
- ◆ 成人式を地域で開催している。
- ◆ 東公民館に代わる、地域の人々が集まる施設をどうするか？
- ◆ 六ツ師の住宅地で、毎週土曜日の午前中に野菜を売る取り組みがされており、そこが地域住民の交流の場にもなっている。
- ◆ 集いの場所が減りつつある中で、児童館、もえの丘、セルプ（のカフェ）の存在が大きい。
- ◆ 遊休施設の活用を地域で検討するとよい。地域活動の拠点づくりにもなるのでは？
- ◆ 民生委員さん、見守り協力員さんによる、集いを企画している。

⑦地域での支え合いに関する様々な問題

- ◆ 地域の人たちが、あいさつをちゃんとする地域だと思う。
- ◆ 行事への協力、参加が多い地域だと思う。
- ◆ 地域住民のつながりが強いと感じることが多い。
- ◆ 町内会主催イベントを増やし、町内会に若い世帯の新規加入促進をしていければ。
- ◆ 町内会は、組長をされていない世帯に、敢えて組長になっていただき、地域に溶け込んでいただければと思う。
- ◆ 町内会活動は、昔からの住民も転入者も区別なく進めたい。
- ◆ 町内会・自治会には、これまでの預金なり財産があると思うので、これを貯めておくだけでなく、利用することで、住民が町内会・自治会の存在価値を感じられるようにしていければ。
- ◆ 福祉団体の役員の成り手不足（例：民生委員、保護司など）。
- ◆ ボランティアの高齢化が進んでおり、世代交代も必要。
- ◆ 若い人に地元のイベントにもっと参加してもらいたい。
- ◆ 民生委員と自治会長のつながりが少ない地域がある。
- ◆ 地域のつながりの必要性を住民が共有できていない。

- ◆ 六ツ師協働隊では、児童の遊びや安全のサポート、環境美化、地域の福祉などの活動を、会員さんが年齢や性別に関係なく楽しく活動しておられる。
- ◆ 未来を見据えた地域コミュニティづくりをしていきたい。現在ある各種団体・組織の横の連携、楽しい対話の場が有効。
- ◆ 地域づくりに対して、過去の延長線上だけでない、新しい方法に答えを見出していく必要がある。

(4) 西春中学校区 (出席者 11 名+スタッフ 1 名)



〔発表の要旨〕

西春中学校区のワークショップの各班の発表では、「人のつながりを大切にしていきたい」(1班)、「希薄になった支え合い機能を補う、新しい取り組みに期待したい」(2班)、『『地のつながり』を生かす、子育て世代のつながりを深める」(3班)などの方向が示されました。

1班 「人のつながりを大切にしていきたい」

- ★ 西春中学校区は、西春駅があり、名古屋の都心への時間距離が短い便利な地区であるため、13階建てのマンションがあるなど、都市化が進んでいる。地域と疎遠な若者や外国人など、様々な人が住んでいる。その一方、農地も残っており、地域活動も盛んに行われている。
- ★ 老人クラブや子ども会などの地域活動や、児童センター、喫茶店などの資源もあり、それぞれ個別の人のつながりがある。
- ★ たばこのポイ捨てを見かけたり、なかなか仲良くしましょう、と言っても難しい側面はある。しかし、学校で行われている高齢者と子どもたちの交流の取り組みなど、地域の人々を互いにつなげる場所、機会を設けていくことで、いろいろな地域の問題がよい

方向に向かうと思う。つなげる方法はないか、これからも考えていきたいと思う。

- ★ 大学生の身としては、どのような活動を地域で行っているのか、知らないので、情報発信をもっとしてほしい。

2班 「希薄になった支え合い機能を補う、新しい取り組みに期待したい」

- ★ 2班では、まず、子ども会の解散が多いということで、それはなぜか、と話し合った。その理由は、活動の企画や、当日の引率の物理的な負担や、事故があったときの責任問題など、保護者への負担が多いためであるからだという話になった。この、なくなった子ども会の機能を補うものとして、地域でフリーマーケットを立ち上げ、保護者同士が交流を深めたいというまとめとなった。
- ★ また、自分で車の運転ができない独居高齢者の支援についても、話し合った。身近な地域に個人商店がなくなり、90代の親の買い出しに2週間に1回付き添っている事例から、そういった人を公的に支援する取り組みがあればいいという話になった。民間の移動販売が、最近、北名古屋市の一部地域で利用できるようになっているという情報も出された。
- ★ これらの問題は、人と人のつながりが薄れ、お隣さん同士の助け合いがなくなるという社会の変化により発生していると思われるので、時代に合った新しい取り組みに期待したい。
- ★ 公的な交通手段の確保のために、きたバスが運行されているが、今日の参加者の中でも、利用している人は少ない現状にある。

3班 「『地のつながり』を生かす、子育て世代のつながりを深める」

- ★ 3班は、地域のいい点、悪い点を皆で出しあい、それをもう少しこうの方がいいんじゃないかな、といった意見交換をし、いい点を伸ばし、悪い点を改善するためにも、「地域のつながりが大事」と総括した。
- ★ いい点としては、「地のつながり」があること。「愛町会」と呼ばれている活動もある。一方で、災害時の助け合いも不安だという意見も出された。
- ★ 悪い点は、子育て世代の地域とのつながりが弱いこと。高層マンションが増えて、転入者のつながりが弱く、世代間の交流も少ないと思われる。学校と地域のつながりがもっとあればいいという意見もあり、そのためには、先生の働き方改革の必要という提案が出された。一方で、児童館・児童センターの活動は活発だという意見も出された。
- ★ 子育て世代が孤立しないようにするためには、誰が来てもいいよ、という交流の場を作っていくことや、二世帯、三世帯での居住を誘導していくことなどの意見が出された。
- ★ 高齢者に対しては、地域包括支援センターが、よく地域をみているという話が出された。

〔画用紙の記載内容〕

参加者一人ひとりが画用紙に記載した内容は、以下の通りです。生活環境の問題や、子ども・子育てをめぐる問題、地域での支え合いに関する問題を中心に、様々な意見が出されました。

①コロナ禍関連

- ◆ コロナの影響で、お祭りが2年にわたり、中止になった。

②生活環境の問題

- ◆ 転入された方は、住みやすいと言っている。
- ◆ 西春中学校区は、駅に近いのが利点。
- ◆ きたバスが不便。
- ◆ 自由に遊べる公園があると良い。
- ◆ 子どもの遊び場が少ない。
- ◆ 道路の幅が狭い道で、車が飛び出してきて、危ない。
- ◆ 夜に、自転車に乗っている時、道が暗いので困る。
- ◆ 見通しが悪い上に、細くがたがたの道があり、転びやすく、危険。
- ◆ 夜道が暗いところが多いため、街灯がほしい。不審者がいて危ない。
- ◆ 路上にゴミが多い。

③情報伝達の問題

- ◆ 地域の活動のことがよくわからない。どんな活動をしているのか、知りたい。

④子ども・子育てをめぐる問題

- ◆ 子育て世代の保護者どうしのつながりが弱い。
- ◆ 子ども会がつぶれていっている。役員の成り手がいない。
- ◆ 子ども会が解散してしまった地区もある。
- ◆ 中学校の生徒のあいさつが、以前と比べて、自然に出てくるようになっていると感じている。地域の人が学校内で除草をしていると、必ずあいさつをしてくれる。
- ◆ 西春スポーツクラブの餅つき大会での手伝い、箸置きづくりやお雛様づくりなどの機会に、中学生ボランティアに参加いただき、とても助かった。「和」を持つことができた。
- ◆ 児童センターきらりで、地域住民が工夫してレクリエーションスポーツや手作り工作に協力すれば、実のある活動になると思う。
- ◆ 児童館で地域住民も参加できるイベントをして、地域のつながりを増やしていきたい。
- ◆ 西春中学校と地域住民とのふれあい活動を続けることにより、将来、卒業生からボランティアが育ってくれたらよいと思う。
- ◆ 登下校時の子どもたちの安全確保が難しい。
- ◆ 学校の先生の「働き方改革」も進めていくことが必要では。

⑤地域での支え合いに関する様々な問題

- ◆ 人のつながりが比較的ある地域だと思う。子ども会や老人会、喫茶店なども。
- ◆ 民生委員、婦人会、まごの手（サロン活動）、まちを見守る「愛町会」など、すべての人たちが、地域で協力してくださっているのが、西春の良いところ。
- ◆ 25年間続けている認知症予防ボランティア活動を継いでいただける人が出てきてほしい。また、参加者を増やすためにも、民生委員ともっと連携していくべきと感じる。
- ◆ 地域には、認知症高齢者や障害者を含め、独居者が多いと感じる。外国人も見かける。
- ◆ 共働き家庭や、シングルの人がとても増えてきたため、地域のつながりが少ないと思う。
- ◆ 西春中学校区は、高層マンションが多い。世帯間の交流が薄れていないか？
- ◆ 戸建て住宅もあるが、アパート・マンションが多く、個々のつながりが少なくなっているのでは。
- ◆ 災害時の助け合いは期待できるだろうか。防災訓練に、住民は参加できているか。
- ◆ 地域包括支援センターは、よく活動されていると思う。
- ◆ 独居高齢者の支援の方法を考えていく必要がある。岐阜県には、買い物のための、公用車を利用した移動支援を行っている自治体があることを聞いた。
- ◆ 地区で、フリーマーケットを立ち上げられたらよい。
- ◆ ヨシツヤの移動ショップが来るようになった。店頭価格に「プラス 10 円ルール」となっている。
- ◆ 移動販売が来てくださっている。

(5) 白木中学校区 (出席者9名+スタッフ3名)



〔発表の要旨〕

白木中学校区のワークショップの各班の発表では、「若者が地域と関わりを持ち続けられる地域に」(1班)、「各児童館の『地域ふれあい会』を核に地域づくりを」(2班)、「子どもたちが自然や地域の人々とふれあいながら育つ地域に」(3班)などの方向が示されました。

1班 「若者が地域と関わりを持ち続けられる地域に」

- ★ 白木中学校区でも、地域の人々のつながりが減っており、ボランティア活動も思うように広がっていかない状況がある。大学生の息子・娘たちは、人々の地域との関わりが以前はあったということが想像できないようだ。
- ★ 地域の中学校を卒業後、市外の高校に進学したら、地域との関わりが全くなかった。このワークショップに参加し、地域との接点を感じることができてよかった。
- ★ この地域は、子ども会がまだ存続できているが、コロナ禍で中止となっており、ちゃんと再開できるか不安。コロナ禍で祭りも中止になった。高齢化で神輿のかつぎ手がおらず、高校生に千円あげてかついでもらってきた現状。小学校の部活もあと2年でなくなる。自治会活動の中で、若者と接する機会づくりをしていきたい。
- ★ 加島地区は、669世帯のうち、パン屋、クリーニング屋など、数軒しか個人商店が残っておらず、高齢者の買い物が大変。地域包括支援センターの協力もあり、移動販売車に来ていただけるようになり、助かっている。

2班 「各児童館の『地域ふれあい会』を核に地域づくりを」

- ★ 白木中学校区は、白木小学校区と鴨田小学校区で事情も異なるが、開発が進んでおり、新しく転入してきている人が多い地域である。地域でのあいさつも、以前ほど、しなくなっているように感じる。防犯のためにも、再度、みんなでやるようにした方がよい。
- ★ 岡地区は、子ども会が白木小学校区では唯一残っており、活動も盛ん。廃品回収も昔ながらのリアカーでやる。鴨田小学校区では、鴨田スポーツクラブが自治会や小学校などと連携しながら、運動会など、地域に根づいた活動を行っている。加島地区では、東海豪雨の被災を機に、防災を中心に地域づくりを進めてきた。鴨田小学校区では、加島地区の子ども会だけが市子連に参加している。
- ★ 沖村児童館では、「地域ふれあい会」の活動が盛ん。小学校をお借りしての炊き出し訓練は沖村独自の活動であり、自慢である。
- ★ 10 小学校区に 10 児童館があり、それぞれ、「地域ふれあい会」があり、自治会長、民生委員児童委員、老人クラブや子ども会の役員、学校の先生、ボランティアなどが年に 3 回程度、地域を良くしようという話し合いを行っている。地域のニーズをキャッチして、私たちがやるんだ、という素敵な会議である。この児童館単位の地域ふれあい会それぞれの活動を中学校区単位などで結びつければ、防犯にも地域福祉にもつながっていくと思う。

3班 「子どもたちが自然や地域の人々とふれあいながら育つ地域に」

- ★ 学生になり、地域の状況を子どもの頃と改めて比較してみると、自然や人とのふれあいが減っていると感じる。
- ★ 外で運動しない子どもたちが増えてきた。家でゲームしかしていない。また、かつて楽しんだ用水路での魚とりもできなくなった。
- ★ 子どもたちが自転車で外遊びに出る際に、段差や雑草が多い道路環境も課題。
- ★ コロナ禍で、遊びに行く場がない。ジャンボプールも中止が続いている。
- ★ 子ども会が残っている地区では、盆踊りなどを楽しんでいるが、昔ほど参加者もいない。子ども会がなくなってきていることを補完するため、「シルバー＆子ども会」などといった多世代が「コラボ」する新しいしくみができると良い。
- ★ 「地域ふれあい会」の中には、先生が主導で、地域住民をあまり巻き込めていないところもある。
- ★ 学生と行政との関わりの中で、マイナンバーカードを持っていれば、コンビニで住民票が取れることなど、行政サービスの基本的なことがわからないと感じることが多い。積極的に広報活動を行ってほしい。

〔画用紙の記載内容〕

参加者一人ひとりが画用紙に記載した内容は、以下の通りです。コロナ禍関連や、生活環境の問題、子ども・子育てをめぐる問題、生活安全の問題など、様々な意見が出されました。

①コロナ禍関連

- ◆ 地域の夏祭りが中止になっている。
- ◆ コロナ禍で大学生活を思うように送れない。
- ◆ コロナ禍により、ボランティア活動が減っている。
- ◆ コロナ禍で休止している活動を再開することが難しいと思う。2年前に活動していた内容を、再開後の役員に伝えにくい。

②生活環境の問題

- ◆ 市の中心部から、少し遠い地域。
- ◆ 自然が残り、田や畑があり、良い。
- ◆ いちじくが名産と言われている。
- ◆ 田畑やお寺、まつりなどが残っている。
- ◆ 自然が多いので、それを活かした、他の市からも訪れたいと思える公園があると良い。
- ◆ 九之坪は公園が少ない。
- ◆ 昔と比べ、地域では、生き物の棲家や遊ぶ場所が減っており、残念。
- ◆ 昔、用水路で生き物をアミですくって遊んでいた。その場所が工業団地になってしまい、そうした遊びをこれからの子どもたちができないのは残念。
- ◆ 企業誘致により、開発が進んでいる。
- ◆ 西の方に企業が進出してきたことにより、車の交通量が増えた。通過交通が多いため、危険。
- ◆ コンビニが多い。
- ◆ 歩いていける場所にお店がない。買い物難民になっている住民がいる。
- ◆ 地域にクリニックが少ない。
- ◆ 加島地区は上小田井駅を利用でき、交通が便利。きたバスは不便。

③情報伝達の問題

- ◆ 情報の発信の仕方が分からない。
- ◆ 住民票を取るのが有料だし、取れる時間が限られているので、学生は大変である。コンビニで取れることも知らない人が多く、広報活動を行っていくことが必要。

④子ども・子育てをめぐる問題

- ◆ 成人式以外で、地元の友達と再会する機会がほしい。
- ◆ 成人式は中学校単位でやってはどうか。時間帯も午後からがよいのではないか。
- ◆ 小学校の部活が2年後に廃止になることが決定している。運動不足などが心配。

- ◆ 子どもが集まることが少ないので、野球チームがつぶれそう。
- ◆ 子ども会が解散し、地域で子どもたちが集まる機会が減少している。リサイクル品の回収にも支障を来している。
- ◆ ボールを使って遊べる場所が地域に少ない。
- ◆ 地域に中高生の遊ぶ場所が少ない。ジャンボプールもコロナ禍で営業されていない。
- ◆ 加島は中学校が遠すぎる。

⑤生活安全の問題

- ◆ 普段、自転車に乗っていて、地域の道路は街灯が少なく、段差が多く、雑草が生い茂っているところもあり、危ないと思う。
- ◆ 交通安全が不安である。
- ◆ 西春駅までの道が、車の交通量が多い。自転車のマナーも悪い。
- ◆ 子どもたちの登下校の安全は確保できているか。
- ◆ 街灯が少ない。
- ◆ 農地が多いから街灯も少なく、まち全体が暗く感じる。
- ◆ 水害が問題。加島は今まで何回もあった。
- ◆ 盗難が多い。これは、北名古屋市全体の問題である。

⑥地域での支え合いに関する様々な問題

- ◆ 人と関わる機会が減っている。
- ◆ 自分子ども以外の子どもと接する機会が少ない。
- ◆ 地域の子どものイベントがなくなり、地域のつながりが少なくなった気がする。
- ◆ 若者と地域との接点が十分でない。
- ◆ 子どもが少なくなり、子ども会もなくなる。高齢者が増えていることも心配。
- ◆ あいさつが大事。
- ◆ 地域住民どうしのコミュニケーションを増やしていきたい。
- ◆ 地域住民の関わりが強い。
- ◆ 誰一人取り残さないことが大事。
- ◆ 地域ふれあい会が、自治会、民生委員、児童などが交流し、すごくいい場所になっている。子どもを軸に考えていく。小学校区で話し合い、解決していくとよい。
- ◆ 小学生、中学生、自治会、児童館、民生委員、社協、市などいろいろな人が関われるように。
- ◆ 「シルバー&子ども会」などといった多世代が「コラボ」するしくみがあると良い。

(6) 天神中学校区 (出席者 11 名+スタッフ 1 名)



〔発表の要旨〕

天神中学校区のワークショップの各班の発表では、『ギブ&テイク』のしくみで支え、支えられる地域に」(1班)、「高齢者、障害者や、情報弱者などに様々な支援を」(2班)、「多世代を結びつける『コールセンター』を」(3班)などの方向が示されました。

1 班 「『ギブ&テイク』のしくみで支え、支えられる地域に」

- ★ 1 班は、「ボランティア」、「ゴミ出し」、「ふれあいの場」という 3 つのテーマを中心に話し合った。
- ★ まず、「ボランティア」では、「みんなが支える側にも支えられる側にもなろう！」を合言葉に、地域クーポン券制度を作るなど、お返しができる「ギブ&テイク」のしくみがあればいい。
- ★ 「ふれあいの場」では、おせっかいな人が高齢者や引きこもりの人など、地域住民を集め、地域の楽しみの場を提供し、人づてにその場を広げていくのがいい。
- ★ 「ゴミ出し」は、防犯カメラの設置や、家の前に置くことで出したごみに責任を感じることのできる戸別収集制度などの意見が出た。
- ★ その他の話として、高齢者が犬などペットを飼うと、癒しになるし、散歩が運動にもなる。心身が弱り、飼う条件が悪くなっても、なんとか、飼える方法をみんなで考えていきたい。

- ★ 児童館で勉強を教えてほしい、というニーズがある。支援員が教えたりしているが、学習支援のための学習ボランティアのしくみがあればいい。

2班 「高齢者、障害者や、情報弱者などに様々な支援を」

- ★ 名岐バイパスの西側に住んでいる。きたバスの便をよくしてほしい。昨年、運転免許を返納し、きたバスの回数券を12枚、一度きりでいただいたが、返納者への継続的な支援をしてほしい。
- ★ 社協では、ボランティアが社協所有の車を使って送迎する事業を、片道限定だが実施している。お金がない人が利用できなくなるので、社協会員限定や社協会員優先にはしていない。
- ★ コロナ禍で集う機会が減り、引きこもっている住民が増えている。引きこもると、心身の機能が弱ってしまう。なるべく外へ連れ出し、元気に地域で過ごしていただきたい。
- ★ 結婚を機に、北名古屋市にUターンしてきた。きたバスを利用したいが、地名が良く分からない。ネーミングライツも普及させ、分かり易くするとよい。
- ★ 市内の障害者支援施設で生活相談員をしている。施設では、コロナの影響で、住民ボランティアが来れなくなり、寂しい思いをしている。また、市外の特別支援学校に通学してきた子、卒業した子が地域とつながりが持てるとよいと思う。

3班 「多世代を結びつける『コールセンター』を」

- ★ 天神中学校区は、親と同居や近居で、親の助けを期待できる世帯が比較的多い。それはよいことだが、往々にして、下の世代が、地域活動を親任せにしている。「それはおやじに聞いてくれ」といった声をよく聞くが、下の世代が当事者意識を持たないと、福祉は良くなれないと思う。
- ★ 一方、転居してきた世帯や、高齢者夫婦のみ世帯など、同居していない世帯もある。こういう方々は、地域で孤立してしまう恐れがある。
- ★ 若夫婦と高齢者、など、地域の多世代をつなぐ「コールセンター」のようなしくみを作ったらい。経験してきたことを、これから経験する人たちに伝える。それをつなぐ。
- ★ 「コールセンター」の「AI」が、最初は、「それにはお答えできません」と答えても、質疑経験を積んで、答えを蓄積していけば、いいしくみになることが期待できる。自称「北名古屋市のお父さん・お母さん」と自称「北名古屋市の息子・娘」が、SNSなどで教え合うイメージが一例。
- ★ 「民生委員」は「民生委員児童委員」であるという認識が少ない人が多い。子育てのことは「民生委員児童委員」に聞くということも大切。

〔画用紙の記載内容〕

参加者一人ひとりが画用紙に記載した内容は、以下の通りです。生活環境の問題や、子ども・子育てをめぐる問題、地域での支え合いに関する様々な問題を中心に、意見が出されました。

①コロナ禍関連

- ◆ コロナの影響で集まる場所が少なくなり、家にこもる人が増えたと思う。
- ◆ コロナ禍で、地域住民が日々の楽しみを我慢し、生活に物足りなさを感じている。コロナ後の「社会復帰」に期待。

②生活環境の問題

- ◆ 田舎的であり、都会的。ほどよい環境である。大都市名古屋も近く、便利だが、犯罪も多い。
- ◆ 清須市の医療機関へ出向く。
- ◆ 医者が遠い。
- ◆ きたバスが安いことはよい。
- ◆ きたバスがもっと使いやすくなってほしい。
- ◆ 高齢になると、車が運転できなくなり、不便になる。買い物が困る。
- ◆ バスの本数を増やしてほしい。せめて1時間に1本。
- ◆ 他市のコミュニティバスを利用することができる。
- ◆ 公的なタクシーのようなものが増えるといい。
- ◆ 放置された自動車がみられる。
- ◆ ゴミの出し方が悪い住民がいる。分別できていない、収集日を守らない、ネットの中に入れないなど。外部からの持ち込みもみられる。
- ◆ ごみ出しマナーを良くしよう。

③情報伝達の問題

- ◆ 天神中学校区は、田畑が多く、人口が比較的少ない。声かけすれば、地区の全員に必要な情報を伝えることが可能では。
- ◆ 駆け込み寺の情報があればよい。
- ◆ 昭和日常博物館や回想法センターなどがあることをもっと人々に知られるようになればいい。

④子ども・子育てをめぐる問題

- ◆ 保護者に課せられる、一般の人以上の規律で、子育て世代がストレスを抱えている。
- ◆ 学習支援のための学習ボランティアのしくみがあればいい。
- ◆ 学校に通えなくなった子のために、学校とは違う場所に、通える場所を作る。
- ◆ 児童館や健康ドームなど、無料で子どもが遊べる場所が北名古屋には多い。
- ◆ 子どもを遊ばせる場所が少ない。

- ◆ 子どもが少しくらい騒いでも大丈夫な図書館があるとうれしい。
- ◆ 有料でいいので、充実した屋内型の遊び場が出来るとよい。

⑤生活安全の問題

- ◆ 田畑が少なくなっており、水害が心配。

⑥地域での支え合いに関する様々な問題

- ◆ 地域のつながりはある。
- ◆ 隣近所のふれあいはできていると実感している。
- ◆ 新旧の住民が協力しあって地域活動を行っている。
- ◆ 天神中学校区は、土地を所有し、戸建て住宅に住んでいる人が多い。
- ◆ 親と同居や親と近居の世帯も多く、親の助けを期待できる世帯が比較的多い。
- ◆ 転入者が急速に増えているが、新旧住民の交流はあると思う。交流が大切。
- ◆ 子どもたちへの声かけをしていきたい。不審者と誤解されないようにしたい。
- ◆ 高齢者の引きこもりがみられる。
- ◆ 独居高齢者の増加。民生委員の方々の見守りの努力。
- ◆ 子育て中の保護者は、何ごとも初めてで不安が多いので、高齢者など多世代の力を借りながら、助け合えるコミュニティを考える。高齢者の孤立防止のためにもなる。
- ◆ 北名古屋市の高齢者は元気いっぱい。しかし、下の世代に地域のことが伝承されていないことが課題。
- ◆ 高齢者と若年層がふれあえる場所を作ること。
- ◆ 人々が集まり、ふれあう場がほしい。
- ◆ 空き家の利用が進めばいい。
- ◆ 障害児・者施設が、西春と師勝で2つある。
- ◆ ボランティアができるチャンスは豊富にあるが、実際の行動に至るまでになっていない。
- ◆ ボランティアさんの育成方法を見直すと良い。
- ◆ ペットは、癒しになり、散歩に連れていくことで運動にもなってよいが、歳をとると、飼えなくなってくる。

意見交換の様子



グループ毎の発表の様子

